

訪問カレッジ「学びの実り アート&ミュージアム」

～医療的ケアの必要な重度障がい者の学びの成果を発表する文化祭～

シンポジウム

「訪問型学習支援事業の持続可能な
制度創設に向けたディスカッション」

2022年11月27日

午後13時～15時30分

シンポジウムの流れ(タイムスケジュール)

1. 「かながわモデル」の発表 (4名×15分)
(休憩 10分)
2. 基調講演 (20分)
3. シンポジウム (50分)
 - ①シンポジストから (3名×5分)
 - ②シンポジスト、発表者、参加者による
意見交換 (30分)
4. 講評 (10分)

*司会進行:山口 秀子(訪問カレッジ支援員 明治学院大学非常勤講師)

シンポジウムのコンセプト

《シンポジウムテーマ》

「訪問型学習支援事業の持続可能な制度創設に向けたディスカッション」

《シンポジウムのコンセプト（意図、構想）》

制度化するためには、何よりも訪問型学習支援事業を広げることが大前提です。

ニーズは全国にあります。

そのニーズにこたえる事業の立ち上げの参考になるように、「かながわモデル」を発信します。

1. 「かながわモデル」の発表

(1) 本人の想い 家族の想い

朝比奈 和子 (訪問カレッジ学生 家族)

(2) 創設の想い 続ける想い

成田 裕子

(フュージョンコム神奈川 県肢体不自由協会理事長)

(3) 支援者の想い (訪問カレッジ支援員として)

奥野 康子 (神奈川県立スポーツセンター専門員)

(4) 大学の想い (訪問カレッジとの連携機関として)

新井 雅明

(本シンポジウム統括責任者、田園調布学園大学教授)

2. 基調講演

「訪問型生涯学習支援の意義と 制度創設に向けた課題」

松田 直

(元群馬大学 教授)

*講師紹介:新井 雅明

3.シンポジウム ～みんなで考えよう～

「訪問型学習支援『かながわモデル』の特徴と課題」

(1)シンポジストより

(訪問型学習支援事業との連携や期待すること等)

①企業による社会貢献の視点から

セイコーエプソン株式会社 牧田 優理

②地域との連携の実践から

社会福祉法人訪問の家 理事長 名里 晴美

③訪問事業 i.porte (アイポルト) の実践から

NPO法人あいけあ 代表 岡安 玲

3.シンポジウム ～みんなで作ろう～

「訪問型学習支援『かながわモデル』の
特徴と課題」

(2) 意見交換等

キーワードとして・・・

○「かながわモデル」の「願い・課題」

○持続可能であるには

○制度創設への展望

などなど・・・

「かながわモデル」 願い・課題

障害者の生涯教育を進めていくための自治体と民間団体が連携していく持続可能な組織の形（「かながわモデル」）を示したい

願い

1. 訪問カレッジでは、学校卒業後も切れ目のない生涯学習支援に取り組みたい

- ① 特別支援学校での学習は生涯学習の起点である。在学中に出会った、生涯にわたって打ち込めること、好きなこと、自信のあることを卒業後も継続したい。
- ② 一方で、カレッジでの学びには、学校時代での学びとは異なる学び、社会人としての学びもある。「学習」⇒「学問」
- ③ 学習支援員も真摯に「学問」に向き合うことを求められている。カレッジ生の学びが学習支援員の学びであり相互の生涯学習でもある。=全ての人が生涯学習の当事者である。
- ④ 生涯学習のプログラム開発は、支援員の学びにもなる。また、支援員の人材育成にもなる。

「かながわモデル」 願い・課題

障害者の生涯教育を進めていくための自治体と民間団体が連携していく持続可能な組織の形（「かながわモデル」）を示したい

願い

2.訪問カレッジでの生涯教育を通して、地域社会とつながり合いたい

- ①卒業後は、生活が家庭中心となり、地域とのつながりができにくくなる。
- ②地域における支援体制構築の基盤作り（自治体、民間団体、そして、協力団体）
- ③地域資源（地域の人材）の活用
- ④誰にでも生涯学習の機会があること、誰にでも学び続けられる社会へ（理解啓発）

「かながわモデル」 願い・課題

障害者の生涯教育を進めていくための自治体と民間団体が連携していく持続可能な組織の形（「かながわモデル」）を示したい

課題

1. 「訪問カレッジ」は、福祉や教育などの制度的な背景のない独自の事業であり、事業継続を行うための財政基盤が無い。
2. 「かながわの訪問カレッジ」は、学生・支援員・家族・大学が、その「願い」を共有し大切にすることで成り立っている。継続には、さらに多くの共有者が必要である。

4. 講評

松田 直

(元群馬大学 教授)

1. 「かながわモデル」の発表

(1) 本人の思い 家族の思い

朝比奈 和子 (訪問カレッジ学生 家族)

(2) 創設の思い 続ける思い

成田 裕子

(フュージョンコム神奈川 県肢体不自由協会理事長)

(3) 支援者の思い (訪問カレッジ支援員として)

奥野 康子 (神奈川県立スポーツセンター専門員)

(4) 大学の思い (訪問カレッジとの連携機関として)

新井 雅明

(本シンポジウム統括責任者、田園調布学園大学教授)

第3回医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム



シンポジウム 訪問型生涯学習支援事業の制度創設に向けて 訪問カレッジEnjoyかながわ

<2019年立ち上げ、事業4年目>

NPO法人フュージョンコムかながわ

・県肢体不自由児協会

成田 裕子

教員時代の気がかり(事業の背景)

保護者の声

学校時代が一番良かった

障害があるからこそ
義務教育等の限られた
学びでは足りない。

卒業したくない留年させて

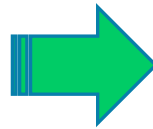
卒後の進路先がない

これらの願い・不安

生涯学習を希求

事業立ちあげの経緯

卒業後も
学びを続けたい



一人の想いに応えよう



先進事例に学ぶ

別の一人の想いに
応えるために、
ボランティアで
訪問型生涯学習を
始めていた
退職教員

退職教員仲間を集めよう(7名)

事業の立ち上げ

訪問カレッジenjoyかながわ

マッチング

卒後も
学びたい人

事業
化

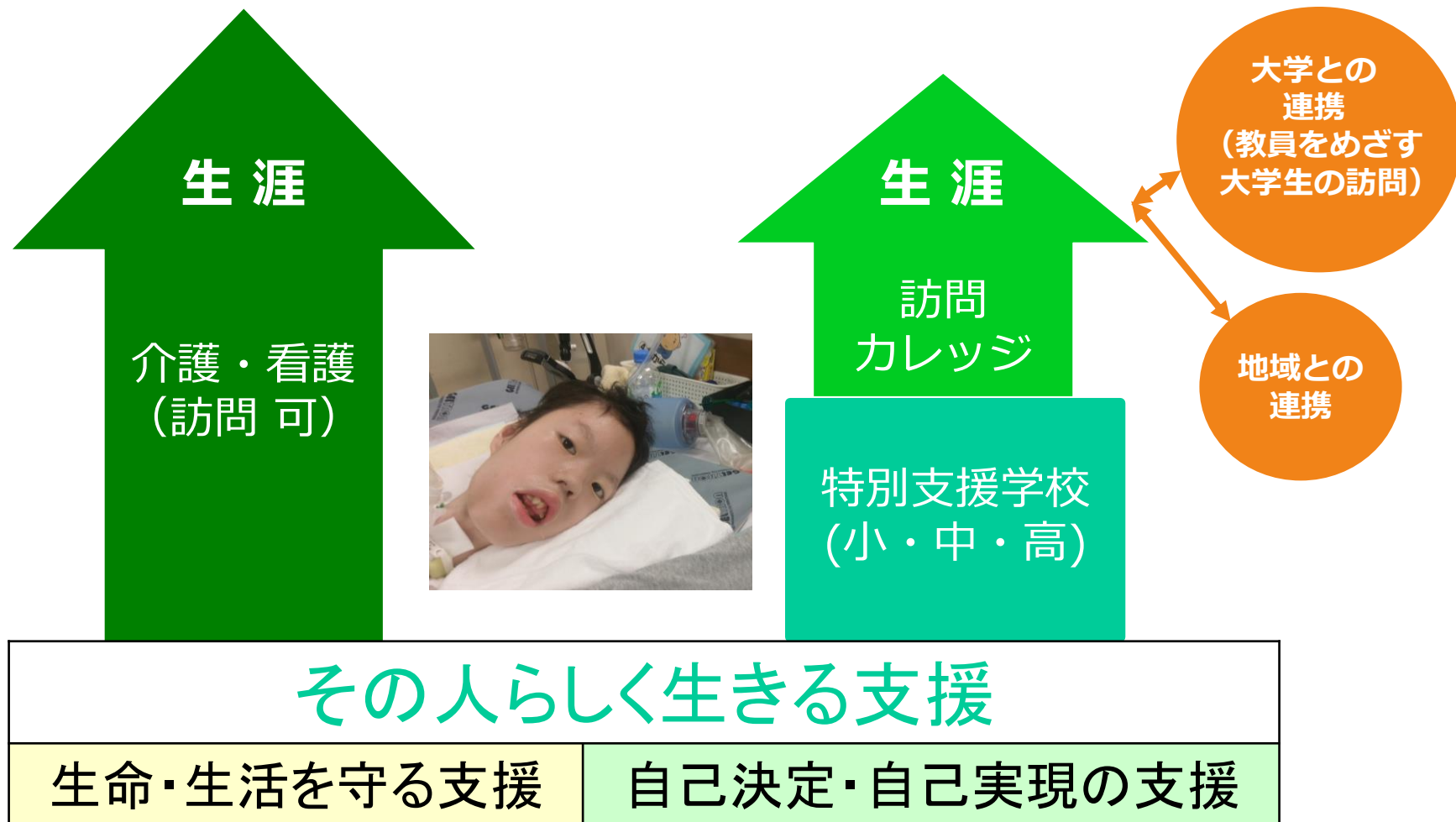
卒後も学びを
支援したい
退職教員

カレッジ生2名 学習支援員7名 2019年4月に立ち上げ

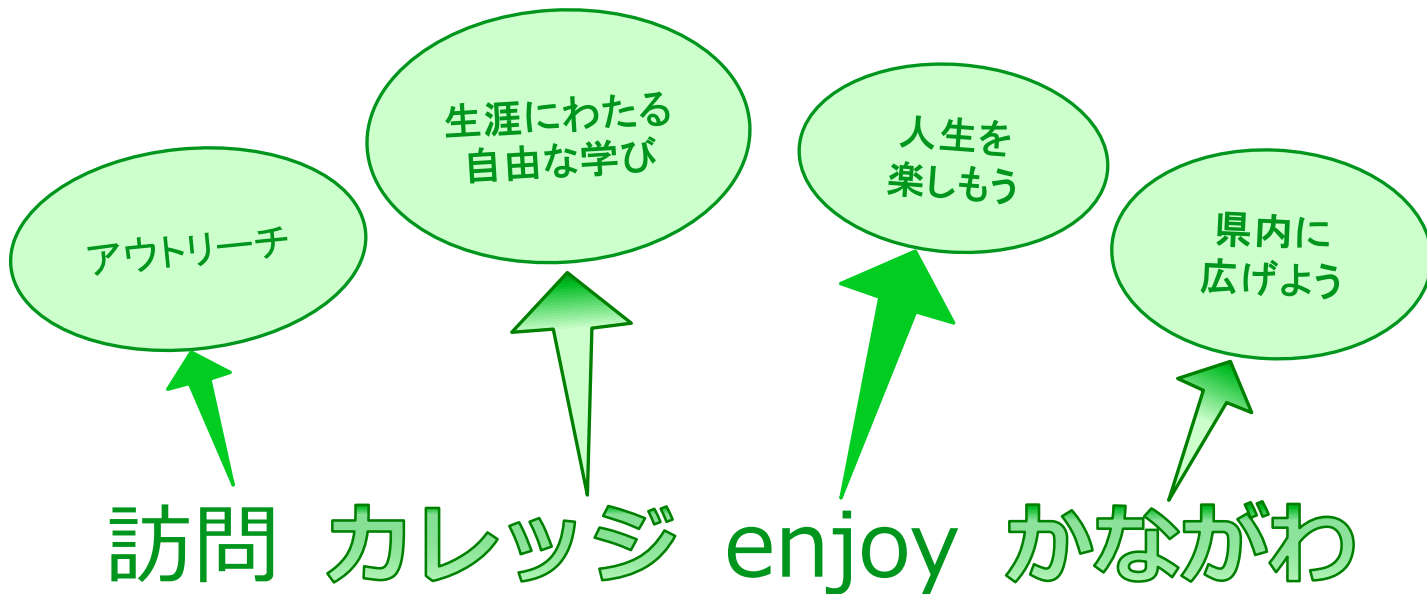
県のボランティア
助成金

同世代とのかかわり
(大学生)

生涯学習の訪問サービス事業とは (訪問カレッジエンジョイかながわ)



事業の名称（訪問型の生涯学習支援）

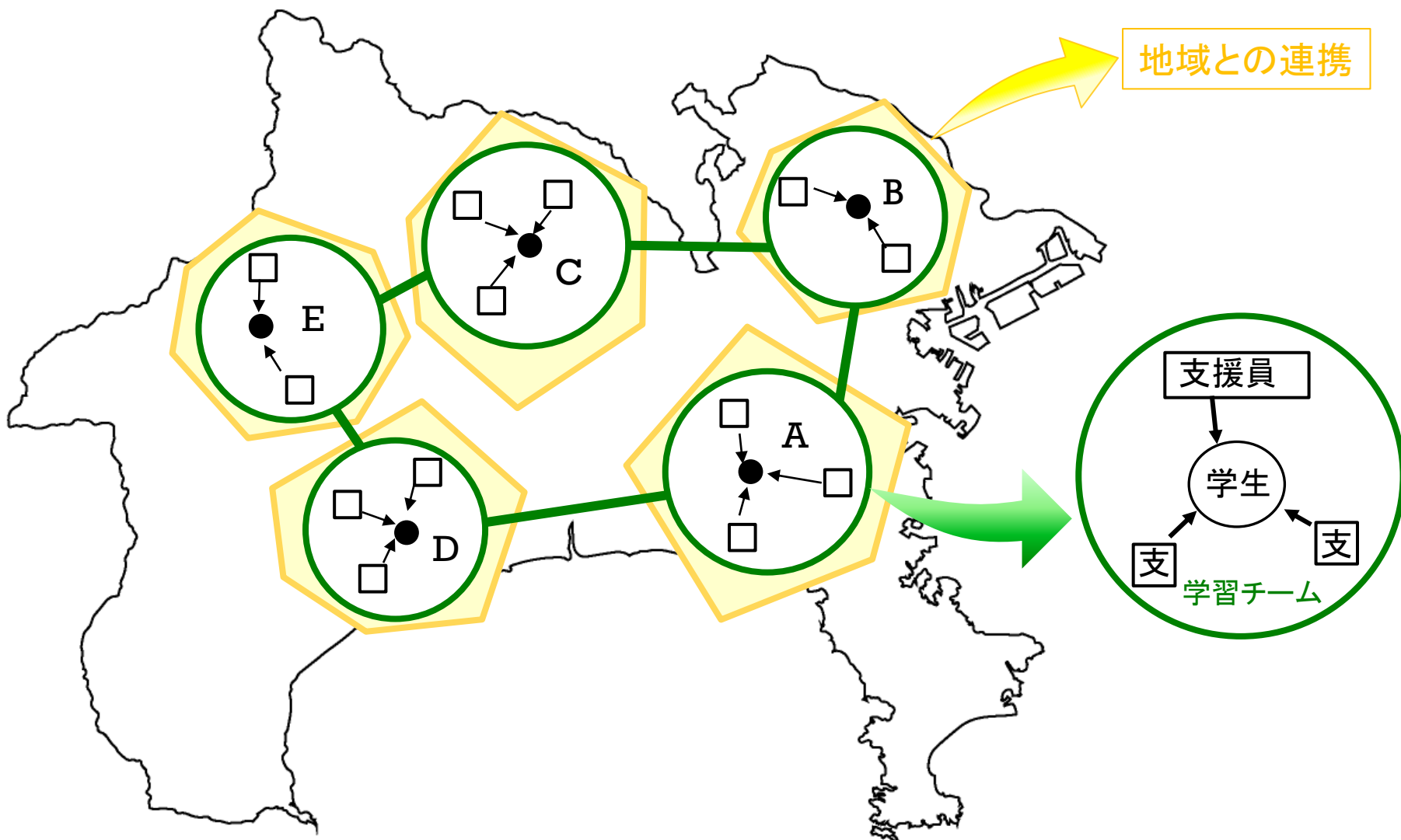


ミッション: だれもが学び続けられる社会

ビジョン: 障害の重い人たちのための生涯学習の実現

バリュー: 学びは自己表現(実現) 教えるから学びあいへ

事業の展開



事業の仕組み



さん

二ヶ月半の、今年度は対面の授業ができず残念でした。

皆々の更野先生の動画の中には、成人式の撮影の言葉もありましたね。成人式でとうとうおめでとうございます。大人の仲間入りおめでとうございます。来年度も一緒にいろいろ学びたいと思います。

オンライン学習も試みて話をしながら学びたいができます。持ち帰りですが、その輪が来るまでもう少しレポートをお願いします。これからは、学びの時間を楽しめましょう。

2021.3.31

訪問カレッジenjoyかながわ
令和2年度 修了証

修了者の記録（レポート・動画など）		
年	人数	コメント
4	1	10
5	4	14
6	9	17
7	3	11
8	6	2
9	4	3

特定非営利活動法人 フュージョンコムかながわ
+ 福祉系専門の認定
理事長 高田 恵子

成人式

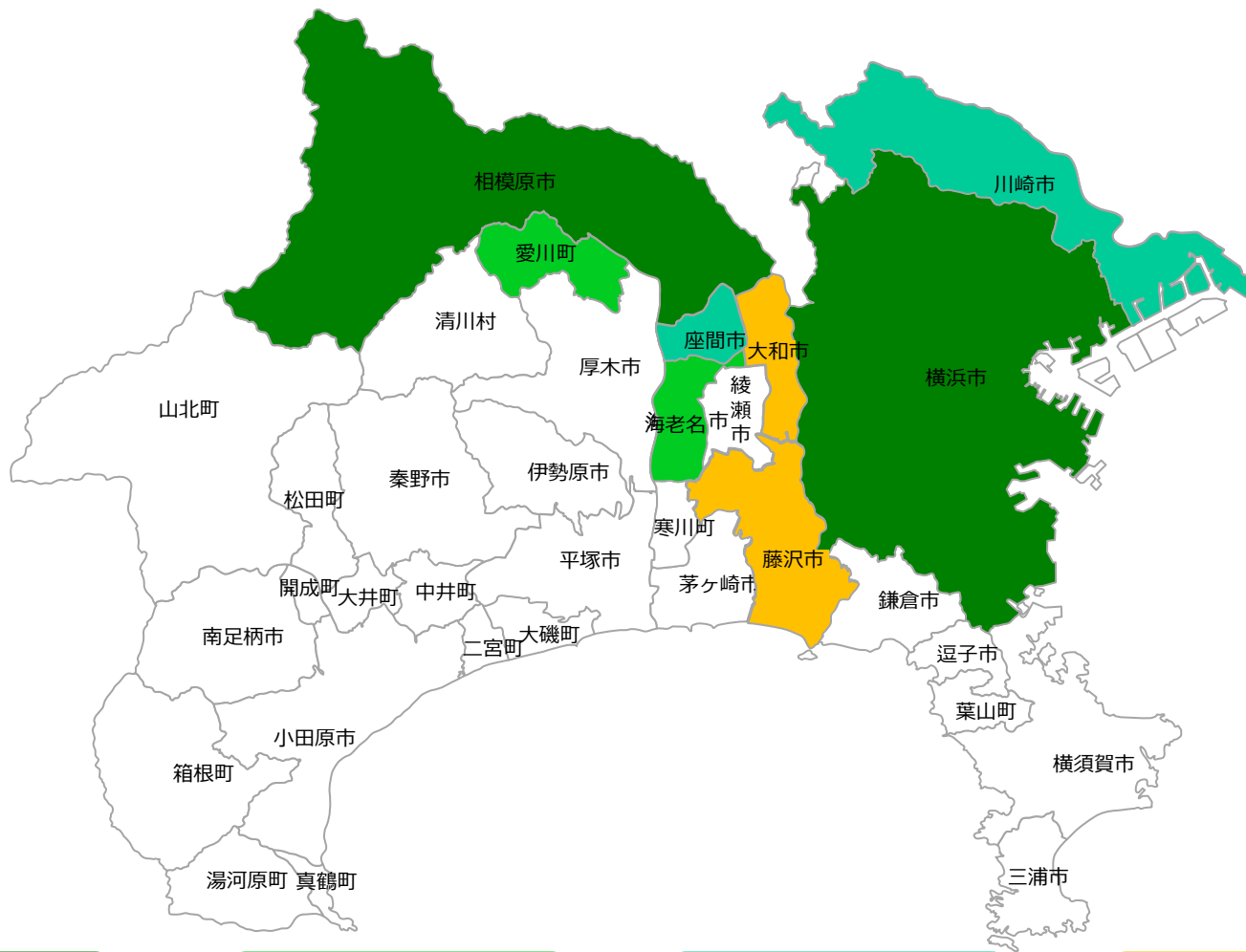
- 年間授業料 5, 0 0 0 円
- 訪問時間 (60分～120分)
- 学習支援員 2名体制で訪問

(ニーズに応じて)

- 訪問回数 1～4回/月
- 訪問時間
10時～、10時半～、14時～、
15時～、16時～
- 訪問場所

自宅・病院・ラントリーキッサ

事業の広がり (カレッジ生の居住地)



2019年(2市)

横浜市
相模原市

2020年(3市1町)

海老名市
愛川町

2021年(5市1町)

座間市
川崎市

2022年(7市1町)

藤沢市
大和市

カレッジ生

○いつかではなく
学びたい今を
大切に

○訪問型の学び
はその人の
主体的な学び

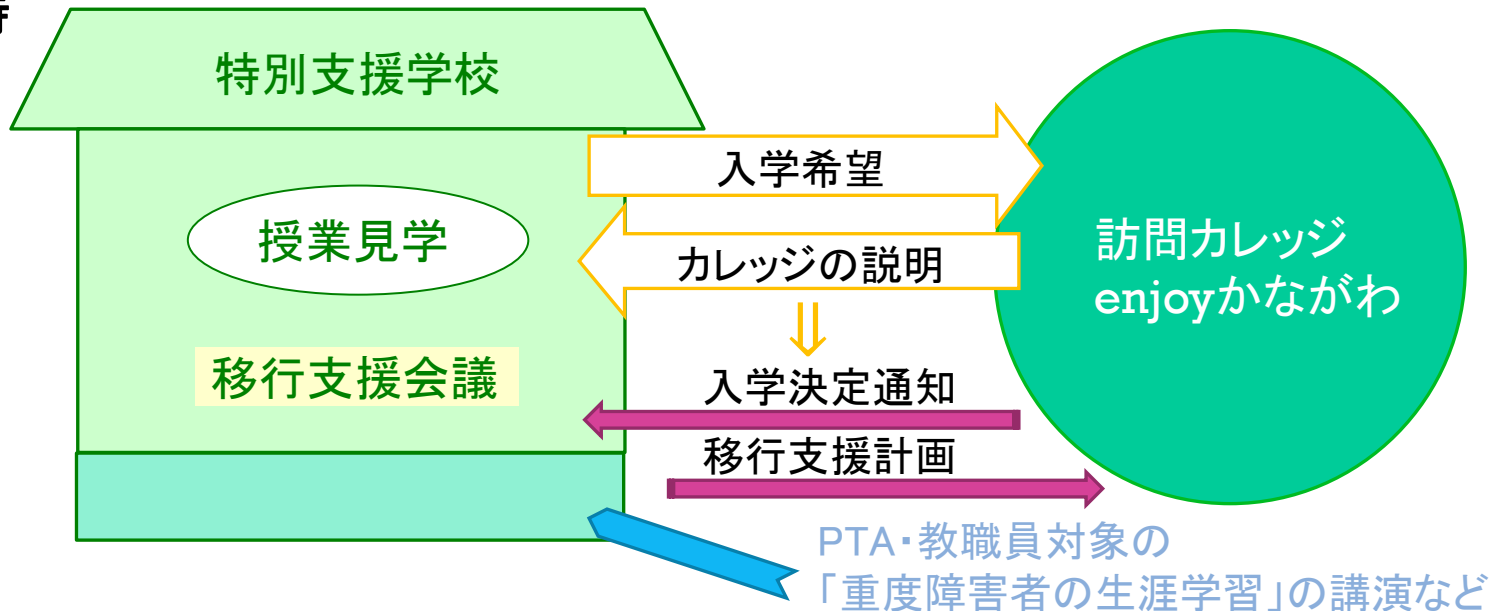
○色々なニーズが
ある

年度	氏名	入学決定時期		年齢	通所先との併用			備考
		高3	卒後		無	週1~2	週3~4	
2019	A	●		22	●			
	B	●		23	●			
2020	C	●		21	●			
	D	●		21	●			
	E		●	25			●	
	F		●	24		●		家庭事情休止
2021	G	●		19	●			
	H	●		19		●		
	I	●		19	●			
	J		●		●			22年2月逝去
	K		●	34	●			
2022	L	●		18		●		
	M	●		18	●			
	N	●		18	●			
	O	●		18		●		
	P	●		18		●		
	Q	●		18			●	
	R		●	21	●			施設入所者準備中
	合計	18	13	5		11	5	2

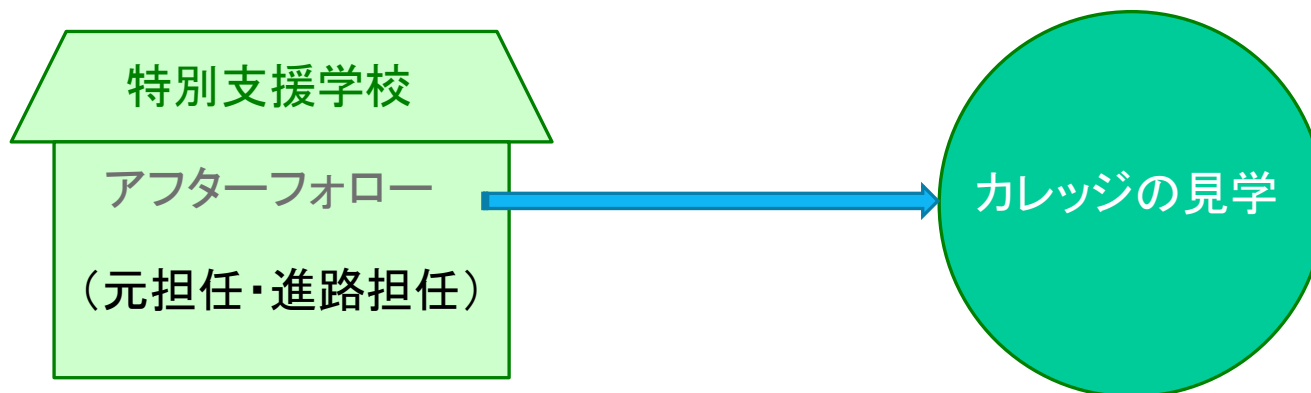
2022.9.1現在

特別支援学校との連携

在学時



卒業後



大学との連携

田園調布学園大学の場合

2019年から開始

ゼミ生へ説明会、

➡カレッジ生へのビデオレター

2021年

・訪問への同行開始

・大学生のサークル立ち上げ

・公開講座

(障害の重い人たちの生涯学習支援の
現状と課題)

2022年

・ボランティア講座

・大学祭を活用した学習発表会

鎌倉女子大学の場合

2022年開始

・サポーター募集の案内をゼミ生に
配布してもらった

↓

希望者2名

↓

面接(カレッジの説明)

↓

訪問への同行開始

地域・社会教育資源との連携

- 財政的な面

県のボランティア基金(3年間 計190万円)

⇒今年度で終了

- 福祉との連携

計画相談のモニタリング(2名)

- 社会教育資源との連携(今後の課題)

学習支援員の広がり(ゲストティーチャー)

学習場所の提供

継続のための今後の課題

① 啓発活動： 多くの人に生涯学習の機会を!!（誰もが学び続けられる社会）

- ➡HP等を使い、事業の様子(彼らの生きる力)を発信する
- ➡学習発表・文化祭(カレッジの学びを発表しあう。発信する)

② ニーズに応じた学びの創造(効果的な学習プログラム)

- ➡学びの記録を共有し、学びの充実を図る(効果的な学習プログラム)

③ 学習支援員の確保（退職教員の人材活用）

- ➡1カ月に1～2回支援できる人を確保

④ 地域・社会教育資源との連携

- ➡大学との連携を深め、多くの大学生に同行訪問を体験してもらう
- ➡視線入力等のICTの活用など、ICT企業等の連携・協力体制
- ➡芸術面等のゲストティチャーの導入(社会教育資の活用・人材育成のノウハウ)

④ 安定的な運営のための財政基盤がない ➡制度化が望まれる

- ・最低限、学習支援員の交通費と教材費は確保
- ・ICT機器や共通教材の購入と保管場所

卒業後に居場所がない場合 ➡ 尊厳の喪失

マズローの欲求5段階説

飯野順子会長資料より抜粋

自己
実現欲求

自分の可能性
を発揮したい

承認欲求

存在感・価値観

社会的欲求

居場所・所属感

安心・安全な環境

安全欲求

睡眠・生活リズム

生理的欲求

最後に



**目標や楽しみがあって、肯定してくれる存在があることは、
本人はもちろんのこと、家族にも生活の幅を広げてくれます**

令和4（2022）年 訪問カレッジ「学びの実り アート&ミュージックミュージアム」

訪問カレッジEnjoyかながわ 実践報告 ～支援員として～

神奈川県立スポーツセンター 専門員
奥野 康子

自己紹介

神奈川県立スポーツセンター

健康・パラスポーツ課 専門員



障害のある方の生涯学習としてのスポーツ活動



カレッジ生の学びのテーマ

「その人らしく生きる」ために
生涯にわたる自由な学び

学校での学びを
続けたい

好きなことを
もっと深く

学ぶ楽しさ・世界が広がる

伝えたいこと
考えていること
聞いてほしいこと

新しい学問
を学びたい

実践報告

① Aさん 22歳 考える・悩む・選



② Bさん 24歳 学習から学問へ



Aさん



- ・SMA(脊髄性筋萎縮症) I 型 人工呼吸器
- ・テレビ(アニメやニュース等) YouTube
ゲーム
- ・目でサイン

Aさん



<授業の内容>

- 時事ネタ
- 科学の実験
- 植物の観察記録
- 音楽 楽器 歌の鑑賞
- 美術 デザイン

自然の仕組みを
見える化

私のニュース



Aさん





メールアプリを使って



Bさん



- 副腎白質ジストロフィー 小学5年生に発症
- 気管切開
- YES → 瞬き
- 表情の変化
- テレビ(音楽やニュース等) YouTube ゲーム
- 現在、「眼鏡型アイトラッカー」試験中

Bさん

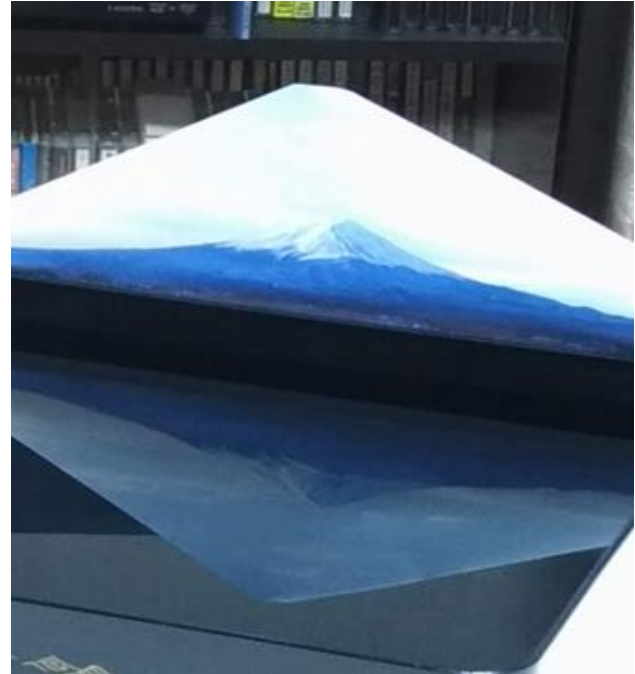


- 英語 → 英語で文通
- 地理・歴史 → 世界遺産
- 古典
- 科学の実験
- 天文学
- 哲学 → 「自分って何だろう」

学習から学問へ



富士山の名水が生まれる仕組み



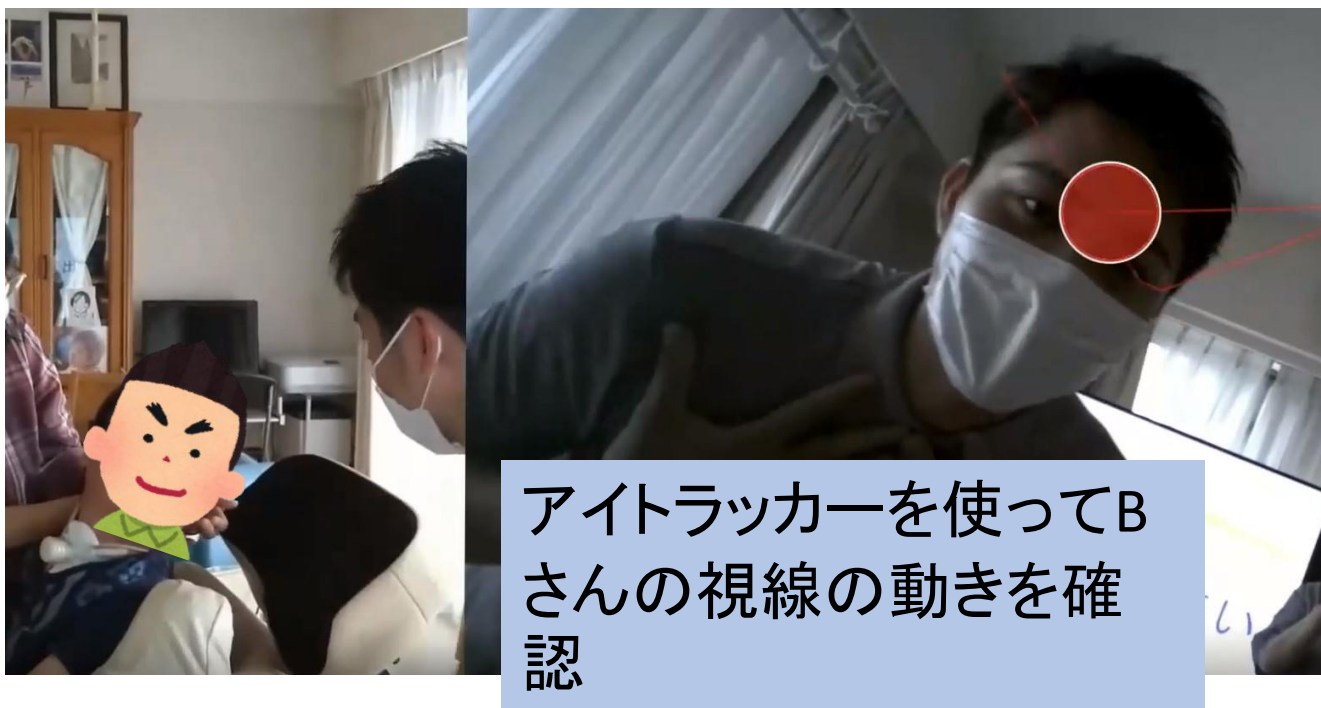
逆さ富士を作って光の反射を学ぼう

課題

同年代との語らいがない！

カレッジ
なのに

サークル「BONDS」学生との交流



私たちの学びのテーマ

「その人らしく生きる」ために
生涯にわたる自由な学び

学校での学びを
続けたい

好きなことを
もっと深く

学ぶ楽しさ・世界が広がる

伝えたいこと
考えていること
聞いてほしいこと

新しい学問
を学びたい

大学の果たす役割

田園調布学園大学人間福祉学部

心理福祉学科教授 新井 雅明

本日の内容



- 1 きっかけ
- 2 周知のために
- 3 人材育成
- 4 サークルの立ち上げ
- 5 今後の課題

1 きっかけ 平成31年3月～

- ・前任者 鈴木 文治先生からの引き継ぎ？
- ・成田理事長からの改めて依頼

同年代との語らいがない

カレッジ
なのに

(1)「訪問カレッジ」の周知

(2)学生の育成→訪問へ

2 周知 令和元(2019)年～公開講座等開催

令和元(2019)年8月22日 ボランティア専門講座

「障害の重い人の暮らしを支えるためにはⅠ」

令和4(2022)年2月26日 公開講座

「障害の重い人たちの生涯学習支援の現状と課題

—様々な視点から支援を考える—」

令和4(2022)年8月20日 ボランティア専門講座

「障害の重い人の暮らしを支えるためにはⅡ

—生涯学習に視点をあてて—」

3 学生の育成 ゼミで対応

【当初の基本方針】

障害の重い人と係わり合うための知識・技能を学ぶ(文献)

教員になるための実践的資質を磨く(訪問カレッジ)

【取組】

令和元(2019)年 準備期 ゼミ等で話題に

～～令和2(2020)年2月新型コロナウイルス蔓延～～

令和2年前期 文献など講読

後期 成田理事長らがゼミで講義

ゼミ生紹介動画作成 カレッジ生に予告

【取組】

令和元(2019)年 準備期 ゼミ等で話題に

～～令和2(2020)年2月新型コロナウイルス蔓延～～

令和2年前期 文献など講読

後期 成田理事長らがゼミで講義

ゼミ生紹介動画作成 カレッジ生に予告

令和3年前期 訪問開始

(手順) 1)支援員さん 新井 ゼミ生

2)支援員さん ゼミ生

4 サークル立ち上げ

【ゼミ生の考え】

- カレッジ2年or4年or卒業後？
- 「生涯学習」とはそんな短期的なものなのか？



私たちが継続的にできることは何か
このゼミ活動のサークル化

「Bonds」の結成

【ゼミ生の感想】

- ・ 最初は、緊張から何を話せばいいか分からなかった。
- ・ 2回目には、見えなかったものが分かってきた。
瞬きで、はっきりと意思表示をしていること。
また、学生には支援員と後輩と二つの顔があること。

今後、私がやるべき事

- ・ 多くの課題がある、しかし

この喜びを後輩に
繋げていくことが最優先



5 今後の課題

- (1)カレッジ生の増加に対応して支援員を充足させる。
原則として複数の支援員で訪問する→支援員+学生
ボランティアに＝田園調布学園大学他大学にも広げる。
- (2)「BONDS」を継続発展させる。
- (3)財源の確保。地元自治体との新たな連携の構築。
→「障害者の権利に関する条約」の「日本審査」では、
障害者への生涯学習に関する勧告は報道されなかつた→現状の方向性は認められた→さらなる充実を

5 今後の課題

(4) 大学は研究機関であるという本来の姿を忘れずに、研究実践の往還の成果を人材育成やカレッジ生の皆さん支援員さんの活動に活かしていきたい。

その一例が、眼鏡型視線追跡装置の試用である。

(右の写真参照)



ご清聴

ありがとうございました

写真や動画の使用にご快諾をいただいた
JさんとJさんのお母様、そして、
BONDS初代サークル長 磯部雅斗さんに
心から感謝しています

2. 基調講演

「訪問型生涯学習支援の意義と 制度創設に向けた課題」

松田 直

(元群馬大学 教授)

*講師紹介:新井 雅明

3.シンポジウム ～みんなで考えよう～

「訪問型学習支援『かながわモデル』の特徴と課題」

(1)シンポジストより

(訪問型学習支援事業との連携や期待すること等)

①企業による社会貢献の視点から

セイコーエプソン株式会社 牧田 優理

②地域との連携の実践から

社会福祉法人訪問の家 理事長 名里 晴美

③訪問事業 i.porte (アイポルト) の実践から

NPO法人あいけあ 代表 岡安 玲

ゆめ水族園

Fantas Projection

～ 企業が取り組む社会貢献活動 ～

セイコーエプソン株式会社
ゆめ水族園担当：牧田優理



Fantas Projection ゆめ水族園 とは

映像、音楽、揺れるスクリーンを組み合わせ、やわらかな空間を作り、視覚、触覚、聴覚などを通じて豊かな感覚刺激体験をお届けするエプソンオリジナルの社会支援活動。

多様な体験の機会を得られにくい方々などに向けて、全国の特別支援学校や病院などの施設を中心に実施。体験される皆様が、普段から慣れ親しんでいる施設の中に「ゆめ水族園」をお届けすることが大きな特徴。

また、ベースとなるプログラム内容に加えて、施設ご担当者と一緒に、施設の特徴にあった最善のプログラムを作り上げることも、特徴の一つ。



エプソンの財産を活かした社会支援活動

プロジェクション

Fantas Projection

ワクワク楽しい映像表現
映像表現により、人の心と身体に働きかけ、
人々の生活を感性面から豊かにしていきます。

人：全国の社員

社員参加型

社員が社会の一員として**自主的、積極的**に
参加してもらう方法で・・・。

ゆめ水族園

エプソンの社会支援活動 5つの重点分野「社会福祉活動」の位置づけ。
2015年から開始。

活動趣旨：直接的期待、狙い

1. 表現の表出を期待する。
2. コミュニケーションの創出を目指す。

手を動かす、目を動かす、声を出す、会話する、
人の中に入ることができる・・・

先生とお子さん・・・いつもの関係とは異なる新たなコミュニケーション
普段、なかなか会うことが無い近隣に人・・・

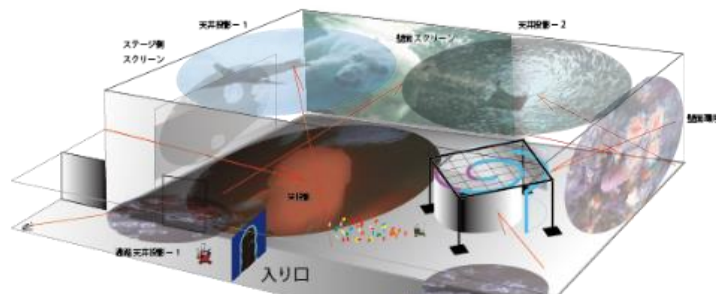


人は、生まれながらにして自分の周りの空間、豊かな質感を

ゆめ水族園 4つのプログラム

① ゆめ水族園

大きな会場での **ダイナミックで動的な映像空間**
 たくさんの方の気配を感じながら、楽しく感覚体験。



② ファンタスカー訪問

病室や小さな空間での **静的な映像空間**。

病室から移動することが難しい方のお部屋を訪問。
 病棟内の広いスペースに設置できるので、病棟から出ることが
 難しい方に、病室よりも広い空間で体験いただけます。



③ ファンタスコラ

「自分たちで投影してみたい!」を応援するセミナー
 投影のツボ、撮影のツボ、楽しみ方のツボなど紹介。



④ ファンタスカー貸出し

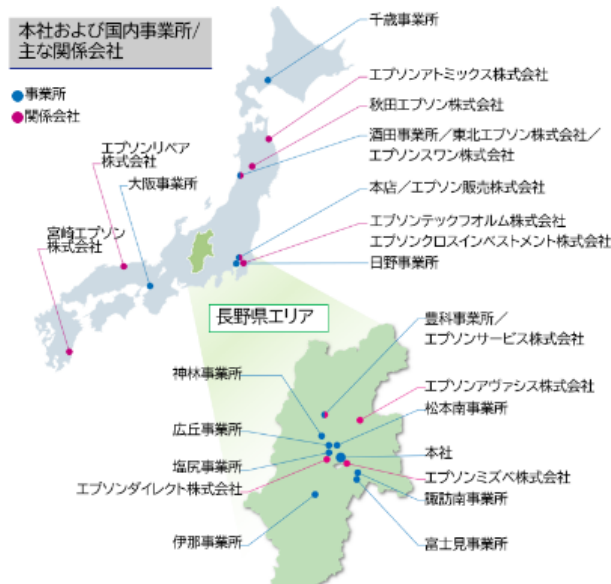
「感覚体験の機会を増やしたい!」を応援する機材貸出し。
 スイッチを入れれば、すぐに「ゆめ水族園」。
 手軽に楽しくプロジェクションによる感覚体験を楽しめます。



商号: セイコーエプソン株式会社

設立: 1942年5月18日

本社: 長野県諏訪市大和三丁目3番5号



<主な事業>

プリンティングソリューションズ事業セグメント

○ オフィス・ホームプリンティング事業

オフィス・ホーム用インクジェットプリンター、シリアルインパクトドットマトリクスプリンター(SIDM)、ページプリンター、カラーイメージスキャナー、乾式オフィス製紙機およびこれらの消耗品など

○ 商業・産業プリンティング事業

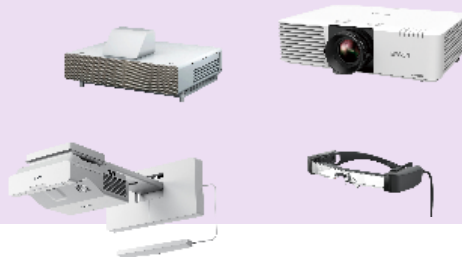
商業・産業用インクジェットプリンター、インクジェットプリントヘッド、POSシステム関連製品、ラベルプリンターおよびこれらの消耗品など



ビジュアルコミュニケーション事業セグメント

○ ビジュアルコミュニケーション事業

プロジェクター、スマートグラスなど



マニュファクチャリング関連・ウェアラブル事業セグメント

○ マニュファクチャリングソリューションズ事業

産業用ロボット、小型射出成形機など

○ ウェアラブル機器事業

ウォッチ、ウォッチムーブメントなど

○ マイクロデバイス他

水晶デバイス(水晶振動子、水晶発振器、水晶センサーなど)
半導体(CMOS LSIなど)
微細合金粉末 ● 表面処理加工

○ PC事業

PCなど



経営理念

お客様を大切に、地球を友に、
個性を尊重し、総合力を発揮して
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する
開かれた、なくてはならない会社でありたい。
そして社員が自信を持ち、
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

EXCEED YOUR VISION

私たちエプソン社員は、
常に自らの常識やビジョンを超えて挑戦し、
お客様に驚きや感動をもたらす
成果を生み出します。

私たちのパーパス (2022年9月制定)



エプソンは、豊かな自然や文化に恵まれた信州で誕生しました。
そんな私たちが抱き続けてきたもの、それは「省・小・精」の技術で、人々の暮らしを豊かにしたいという想い、
そして、自然の豊かさを守り、未来へつないでいきたいという強い想いです。
これまで世界に先駆けてフロンを撤廃するなど、つねに社会課題に目を向け、誠実に取り組んできました。
そのなかで追求してきたエプソン独自の「省・小・精」。
大きいこと、量が多いことだけが豊かさではない。省くこと、小さくすること、精緻さを突き詰めること、
これこそが、自然環境にやさしく、人々のところを豊かにできるものだと思っています。
「省・小・精」から生み出す、より大きな価値で、人と地球を豊かに彩っていきたい。
私たちは、そんな想いを実現していきます。

エプソン社会支援活動の基本的考え方

- ・SDGs達成に貢献します
- ・持続可能でこころ豊かな社会の実現を目指します
- ・世界の各地域に根差した活動を展開します



ゆめ水族園



EPSON
EXCEED YOUR VISION

訪問カレッジ

「学びの実り アート&ミュージックミュージアム」

～医療的ケアの必要な重度障害者の学びの成果を発表する文化祭～

シンポジウム

朋の日中活動・地域との関わり

令和4年11月27日

社会福祉法人 訪問の家

名里 晴美



～ 成り立ち ～

- S47年に始まった重度重複の障害のある児童のための学級「訪問学級」（横浜市立小学校特殊学級として）その「母親グループ」が母体となり、卒業後も通える場をつくった
- 2カ所の地域作業所を経て、S60年、法人認可
- S61年、知的障害者更生施設（通所）開設 定員40人

☆重症心身障害児施設に通所はない

横浜市と協議し、施設種別は知的障害者の通所更生となる
実質の通所予定者は、重症心身障害児者といわれる人たちであるため、開設にあたっては、横浜市が市単で加算

☆地域の反対があった

『横浜の田園調布に障害者施設はなじまない』

重度心身障害者施設の建設予定地。右が桂台中、正面が桂台保育園



横浜市戸塚区上郷町の湘南桂台団地に、同市の助成で重度心身障害者の通所施設が建設される計画だが、地元自治会の反対に会い、無軌している。自治会会長は名で「地域の環境になじまない」として計画中止を求める申し入れ書を横浜市長に出している。施設関係者は「何とか町議決を」と願っているが、反対の気風に立つ自治会長が民生委員を兼ねていることから、「福祉の地に立つ人物のやるべき態度ではない」と批判する声も出ている。

障害者施設はなじまぬ

湘南桂台自治会

計画中止申し入れ

役員会で環境に配慮が必要 反対決め



会長は民生委員なのに

この施設は、社会福祉法人「湘南の家」(日相英智社長)が設け、運営する「朋」とも「教育園」(仮称)。計画によると鉄筋コンクリート二階建て約千平方メートル、市有地約二千二百四十平方メートルを無償で貸す。建設費は市、民間団体の補助を含め約三億円。重度心身障害者四十人を対象に、朝や夕方ランチの車通わせ、衣服の替り、食事、入浴など日常生活面を中心に指導する。今年度中に湖原、設計などを終え、来年度

裏切られなかつた老女の心

上回る善意

報道された。戸塚区警本部の警備員が、高齢者入ホームの長尾ふた子さんを捕縛しようとしたところへは、これまで川崎、厚木、横浜などから利命が送られてきていたが、九日午後三時すぎには、戻った。長尾さんは



朋 昭和61年 横浜市栄区桂台に開設

～ 理 念 ～

一人ひとりを大事にし
障害のある人も高齢者も
誰もが健康で平和に暮らせる
真の豊かさをもつ社会づくりをめざす

～2つのキーワード～

「一人ひとりを大事に」

「誰もが暮らしやすい社会づくり」

朋について

～ メンバーの概要 ～

人数	61人（朋：40人／朋第2：21人）
年齢	平均年齢33.0歳（最高年齢70歳／最低年齢18歳）
障害程度区分	「6」：59人／「5」：2人
身体の状態	<ul style="list-style-type: none">・人工呼吸器使用 4人・酸素使用（常時＋随時） 11人・気管切開 10人・下咽頭チューブ 4人・吸引 34人・吸入 12人・経管栄養 37人 （内、経鼻経管 5人、胃ろう 31人、腸ろう 1人）・インシュリン注射 1人・導尿 3人
グループホーム で生活する人	15人 （内、外部法人が運営するグループホームで生活する人2人）

（令和4年4月1日現在）

朋について

～ 活動 あれこれ ～

- ★「だいち」「つばさ」「ひびき」「ぎんが」
の4グループで活動
- ★ 全員が集まるホールの朝の会から1日がスタート
(コロナ後は、各部屋からZOOMでつなぐ方式に)

- 自主製品（クッキー,どら焼き,ハーブソルト,ジャム等）製作及び販売
- 近隣宅への空き缶回収及び缶プレス
- バンド活動、地域イベントへの出演
- 近隣の保育園、小学校、中学校との年間を通じた交流
- 地域で活動する音楽グループその他が出演する朋内ミニコンサート
- 自治会事業への参画による朋園庭みどりアップとオープンガーデン
- ボランティアの協力による成人を祝う餅つき、愛ひかりフェスタ、ボランティア交流会等の行事
- 地域行事（夏祭り、運動会等）への参加 等

～ 日中活動 ～

介助を得ながらであっても
視線、声、表情等々から

活動の主体は本人！

社会の一員として
いろいろな人と出会い、関わり合い

社会とつながっていく活動をしよう！

～ めざしてきたこと ～

- 一人ひとりの、表情の変化や小さな表現に注目し、好むもの、やりたいこと、続けたいこと等、本人の希望を見出す
- 家族の中での本人の存在を大切に、在宅生活の中で必要な支援を導き出す
- 本人の地域社会との関わりを重視し、地域の人と直接関わり合う活動を行う
- 将来（家族と離れて）の生活について、本人が望んでいるであろう暮らしの実現をめざす





社会福祉法人 訪問の家事業所紹介

令和4年(2022年)7月31日現在

生活介護事業所

朋(とも)



- ※生活介護
- ※短期入所
- ※日中一時支援

〒247-0034
横浜市栄区桂台中4-7
☎: 045-894-6611
FAX: 892-3909

朋第2(ともだいに)



- ※生活介護
- ※日中一時支援

〒247-0004
横浜市栄区柏陽3-18
☎: 045-894-7297
FAX: 894-7375

集(つどい)



- ※生活介護
- ※短期入所
- ※日中一時支援

〒235-0002
横浜市磯子区馬場町1-42
☎: 045-751-8707
FAX: 751-8614

横浜市法人型地域活動ホーム

サポートセンター径(みち)



〒247-0034
横浜市栄区桂台中4-5
☎: 045-897-1101
FAX: 897-1119

- ※生活介護
- ※一時ケア

- ※地域交流
- ※おもちゃ文庫
- ※ショートステイ
- ※地域活動支援センターデイ型
- ※余暇活動支援

サポートセンター連(れん)



〒241-0835
横浜市旭区柏町59-2
☎: 045-360-9778
FAX: 360-7004

- ※生活介護
- ※一時ケア

- ※地域交流
- ※おもちゃ文庫
- ※ショートステイ
- ※地域活動支援センターデイ型
- ※余暇活動支援

相談支援・後見の支援事業

径・さかえ次世代交流ステーション



〒247-0005
横浜市栄区桂町711
※栄区基幹相談支援センター
☎: 045-890-6601
※栄区後見の支援室「とんぼ」
☎: 045-390-0201
※放課後等デイサービス「ひこうこんど」
☎: 045-390-0281

旭区基幹相談支援センター 旭区障害者後見の支援室 絆



※旭区基幹相談支援センター
〒241-0821
横浜市旭区二俣川12-58-2-3F
☎: 045-365-7000
※旭区障害者後見の支援室 絆(きずな)
移動先住所: 〒241-0821
横浜市旭区二俣川11-45-94 セレス二俣川11F
☎: 045-365-5200 FAX: 045-744-8860

横浜市多機能型拠点

郷(さと)



〒247-0034
横浜市栄区桂台中2-1
☎: 045-443-7666
FAX: 897-6030

- ※短期入所
- ※相談支援事業(指定特定相談)
- ※日中一時支援
- ※診療所
- ※訪問看護
- ※自主事業
- ※地域交流事業

診療所



朋診療所

- ※診療科目
- ・小児神経内科
- ・小児科
- ・内科

〒247-0034
横浜市栄区桂台中4-7
☎: 045-895-0606
FAX: 895-6253



郷診療所

- ※診療科目
- ・小児科
- ・内科

〒247-0034
横浜市栄区桂台中2-1
☎: 045-443-7554
FAX: 897-6030

共同生活援助(障害者グループホーム)



きゃんぱす

〒247-0034
栄区桂台中8-8



ほびねす

〒247-0004
栄区柏陽14-11



ふおぴーす

〒247-0004
栄区柏陽21-26



コム

〒247-0009
栄区鍛冶ヶ谷2-13-22



からーず

〒247-0008
栄区本郷台5-14-9



ハイビスカス

〒247-0009
栄区鍛冶ヶ谷1-21-1



どりむはんず

〒247-0008
栄区本郷台5-14-21



トポス

〒247-0008
栄区本郷台5-14-18



アレグリア

〒235-0004
磯子区下町7-13



ひいらぎ

〒235-0003
磯子区坂下町8-28



オハナ

〒235-0021
磯子区岡村1-2-15



ファイン西が岡

〒245-0006
泉区西が岡1-32-13



ファイン鶴ヶ峰

〒241-0033
旭区今川町5-6

※障害者グループホーム

エリア別連絡先

- ・栄地区「PAC」 ☎: 045-392-8641
- ・磯子地区「集」 ☎: 045-751-8707
- ・旭、泉地区「連」 ☎: 045-360-9778

横浜市地域ケアプラザ

桂台地域ケアプラザ



〒247-0034
横浜市栄区桂台中4-5
☎: 045-897-1111
FAX: 897-1119

根岸地域ケアプラザ



〒235-0002
横浜市磯子区馬場町1-42
☎: 045-751-4801
FAX: 751-4821

- 地域包括支援センター ●地域活動交流事業 ●生活支援体制整備事業
- 介護保険事業 ●居宅介護支援(ケアマネジメント) ●介護予防支援(介護予防ケアマネジメント)
- 通所介護(デイサービス) ●介護予防通所介護(介護予防デイサービス)

花かご



- ・横浜市介護予防
- ・生活支援サービス補助事業(通所型サービスB)

〒247-0032
横浜市栄区桂台東1-1
☎: 080-7170-6699

居宅介護事業(障害と高齢)



ヘルパーステーション さくら草

- ※障害関係
- ・重度訪問介護
- ・居宅介護
- ・訪問介護
- ・移動支援
- ・有償移送
- ・通所介護訪問介護

〒247-0004
横浜市栄区柏陽2-23
☎: 045-894-6692 / FAX: 891-9867



指定特定相談支援事業所 PAC

- ※指定特定計画相談
- 法定外
- 法人内 地域生活支援事業連携拠点

〒247-0035
横浜市栄区桂台西2-5-10
☎: 045-392-8641 / FAX: 392-7294

法人本部



- ※本部事業
- ・事業運営掌握
- ・人材募集
- ・法人研修
- ・法人会計

〒247-0034
横浜市栄区桂台中4-7
☎: 045-894-4640
FAX: 894-4647

意思決定支援について思うこと

ある切り取られた場面で、

AかBを選んでもらうことだけが意思決定支援ではない
さまざまな支援をしても、明確にAかBを選択することが難しい人もいる

⇒ だから意思がない？



とんでもない！

どんなに重い障害があっても

眠っている以外、絶対に何かを感じている！

私が考える“意思決定支援”（1）

経験してもらう

1回の経験で反応がなくても、何回か経験することで味
わえ、楽しめたり、期待するようになることもある

その人の歴史を知る

どんな人たちの中で、どんな環境で、何を感じ、表現し
てこられたか・・・

時間を共にする

好んでいるもの、望んでいることを推しはかり、確かめ
ていくことはできる

私が考える“意思決定支援”（2）

- ◇ 決定されたこと（本人が希望されていること）を共に実現する

困難があっても、あきらめない

- ◇ 実現されたことをどのように味わっているのかを受けとめる

それらを繰り返す

= “共に生きる”ということ

“本当の共生社会”とは

- ☆人の気持ちを大事にする、尊重する社会
(どんな生きづらさを抱えていても)
- ☆地域のため、社会のために、それぞれの人が
できることを、できる時間で行っている
- ☆とにかく誰かと出会っている、つながっている
**支えているようで支えられていたり、
ある時は支えていた人が
別の時には支えられていたり**

訪問の家周辺で起こっていること

- 活動や暮らしの中で顔見知りが増え、近隣に住むボランティアさん、パートさん、ヘルパーさんがたくさんいる
- 小中学校との長いおつきあい（交流）からたくさんの方のエピソードが生まれている
- かつてのボランティアさんが支援が必要に
ある時は誰かを支え、ある時は支えられる
＝地域で支え合う空気
- 「住みたくなる地域に！一緒に街づくりをしましょう！」
住民から声がかかるように

日中活動の場の意味

- 生活介護事業所は、“社会人として生きる場”
- 本人が望んでいる（であろう）活動、暮らしを実現する拠点（様々な機関等と連携・協働しつつ）

大切なことは、

- 本人の希望を明確化するプロセスを実施し続ける
- 本人の気持ちを受け止め、共に希望を実現する人の輪をひろげていく（地域の人を含めた人脈のひろがり）

i.pORTE(あいぽると) の実践

NPO法人あいけあ 岡安
玲

20221127

文部科学省 令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」
訪問カレッジ「学びの実り アート&ミュージックミュージアム」
～医療的ケアの必要な重度障害者の学びの成果を発表する文化祭～
シンポジウム:訪問型生涯学習支援事業の制度創設に向けて
～持続可能な訪問型生涯学習支援にするために「かながわモデル」の提案～

NPO法人あいけあのミッション

- 障害児者、とりわけ医療ケアの必要な重い障害のある人たちとその家族が、家族のそれぞれの暮らしの在り方を守って、地域で安心・安全に、豊かで幸せな生活ができる社会を創る。



NPO法人あいけあのビジョン



心地よい生活の場

愛のあるケアを受けられる心地よい生活の場を作る



安心・安全な暮らし

安心・安全な医療ケアを受けられる暮らしを守る



つながり

地域から孤立しないためのつながりを作る

NPO法人あいけあのアクション

- 生活介護と放課後等デイサービスの多機能型事業所「i.care」の運営
- 訪問支援事業「i.porte」の試行

本人主体の生活を楽しみ、命を輝かせるような取組が必要である。音楽や美術などの表現活動、運動プログラム、外出や人とかかわる活動など、学校時代に経験したことを踏まえて「生涯療育」の視点で組み立てていきたい。また、通所できる時には通所し、できない時には支援者が訪問して同様のプログラムを提供するようなことにも取り組みたい。

©NPO法人あいけあ

訪問事業 i.porte ①事業の目的

在宅生活をしている医療ケアの必要な障害の重い人たちに生涯療育の機会を提供し、人との係わりや活動を通して、豊かな生活が送れるよう支援する。

訪問事業 i.porte ②背景

- 特別支援学校在学時に訪問教育対象となっていた重度重複障害のある人は、卒業後に在宅生活となり、社会との接点を持ちづらい。
- 福祉サービスとしてのヘルパー利用や訪問リハ、訪問看護を受けることはあるが、在学時のような音楽や美術などの表現活動、運動プログラム、外出や人とかかわる活動などはほとんどない。
- また、在籍する施設がないため、体調が安定した時に通所したり、仲間とかかわる機会を持つこともできない。

訪問事業 i.porte ③事業の概要

対象者

- 特別支援学校在籍時に訪問教育を受けていた人で、在宅生活となっている人（通所先がないか、長期で通所できなくなっている人）
- 川崎市・横浜市在住の人
- 2022年11月現在で登録は5名

方法

- 月1～2回の自宅等への訪問により、本人主体の活動を行う（1回あたり2時間程度）
- 1回あたり1～3名で訪問
- 現役教員のボランティア、事業所のスタッフが訪問
- 運営資金は、助成金・補助金、または事業所の持ち出し

課題となること

- ① ニーズはあるが、制度がない . . . 資金源が不安定
- ② 支援者のコーディネート . . . その人のことを良く知っている人が適切に人を派遣できればいい
- ③ 人材不足 . . . 事業所のスタッフが訪問を試行
- ④ 学校期からのスムーズな移行 . . . 進路先として選ばれるように

持続可能な形にしていくために

学校の訪問教育のイイトコ取りで！

学校	在宅訪問	スクーリング
あいけあ	訪問事業 i.porte	生活介護事業 i.care

居宅訪問型生活介護の創設を！

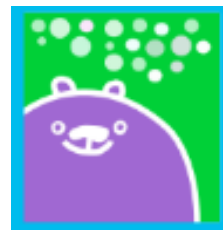
ご清聴ありがとうございました。



N P O 法人 あいけあ
Facebook ページ



i.care 放デ
イ
instagram



N P O 法人 あいけあ
ホームページ



あいけあ医ケア
LINE スタンプ



4. 講評

松田 直

(元群馬大学 教授)

訪問カレッジ「学びの実り アート&ミュージアム」

～医療的ケアの必要な重度障がい者の学びの成果を発表する文化祭～

シンポジウム

「訪問型学習支援事業の持続可能な
制度創設に向けたディスカッション」

みなさま

ご参加 ありがとうございます。

*「学びの実り アート&ミュージアム」のアンケートに、ご協力ください。